

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2775600519		
法人名	有限会社 エフ・エフ産業		
事業所名	グループホーム さくら荘		
所在地	大阪府泉南市新家3566-4		
自己評価作成日	令和2年8月23日	評価結果市町村受理日	令和3年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の行事を大切にしています。お正月には、年末に皆でついたお餅で雑煮食べ、皆さんでそろって初詣に出かけたりと色々です。1年に2度ある家族交流会も、入居者様皆様大変楽しみにされておられ、自分たちの家族が来てくれるという事で、張り切って料理を手伝ってくださいます。地域交流も回覧板を利用し、さくら荘での様子や地域の医師による認知症カフェでの内容など掲載させて頂いていました。しかし今年度は、春位から新型コロナウイルスが流行り、中々地域での交流、という事が難しく、残念ながら、見送ることも多くなってきています。個人的な買い物も、職員が代理で買って来たり、家族様に購入をお願いしたりすることで、補っています。今は、季節の花を散歩の時に楽しんだりすることくらいで、息抜きをして頂いています。この状況が一刻も早く元の生活ができるようになることを望んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日欠かさず、朝礼時意識付けができるように、職員そろって理念を唱和しております。そして常に入居者様に対して、「その人らしく生き活きと」生活して頂けるように職員全員が「その人の思い」を大切にしながら、ケアを行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の区長さんが、さくら荘の回覧板を回して下さっています。その回覧板には、入居者様のご様子や毎月の行事、また地域の認知症カフェの内容 特に認知症専門医の話等を掲載させていただいております。コロナが流行って、中々ご近所の方との交流も難しくなっておりますが、回覧板を回して下さっていることで、さくら早の事をご理解頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3か月に1度回している回覧板には、さくら荘での行事や地域の認知症カフェでの先生方のお話の内容、それは、コロナのことだったり、認知症の最新情報だったり その時々に関心のある事と様々ですが、掲載させて頂いております。地域のさくら荘という事で、回覧板には、介護で困ったことが有ればいつでもお声をかけてください と書かせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、2か月に1度、現状を報告し、参加して下さっている地域包括、行政、民生委員、地区の区長家族様の代表の方々からの、貴重なご意見を頂き 今後のケアに繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1度の運営推進会議では、その時々いろいろな事をご相談させて頂いたり、また、わからないことがあれば、その都度電話で小まめに連絡し、相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、家族様の了承を得たうえで、現実拘束になるだろうという事で、市の方に届けております。骨折し(手術しない)、認知症あり(本人様歩けるとの思い込みあり)、片側壁、2点柵を行っています。主治医の意見やカンファレンスで、外す事も何度か話し合いを行ってきました。柵は、自身で外し、床に捨てるので、その時の音や呼び声をサインに訪室しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束については、3か月に1度虐待・拘束予防委員会を行っています。外部研修にも参加し、荘内においても、入居者様の拘束については、何度もカンファレンスし、話し合う機会を設けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中には、後見人制度を利用されておられる方がおられます。また、後見制度を利用するために、手続き中の方もおられます。認知症の方で、家族様がおられない方、子供さんがおられても、頼ることが出来ない方、等 諸事情により様々です。認知症は、進行性の病気なので、後見人制度を利用することが必要です。職員は、制度の研修にも参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時、料金の改正時は、理解して頂くために十分な説明を行いさらに同意を得たうえで、手続きを進めている。解決時も本人様の状況を検討し、家族様に十分ご理解頂いたうえで、行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナが流行し、今年は、家族交流会も開催されず、その為家族会も開催できなかった。いつもは、家族会で、皆様の御意見等 伺える機会もありましたが、現状 家族様の面会も15分程と非常に短く中々満足頂けるものとは言えないのが現状です。家族様と顔を合わせた時に現状等を報告するという事ぐらいで精一杯です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃現場に入り、職員の意見等聞くようにしている。また、個別に日頃感じていることなど、思いや意見を聞いている。そういう職員のやりがいを持てるように努めている。職員の評価報告を受け、職員の努力への労いや、褒めることにも、心掛けるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、介護職員の処遇改善費支給条件を満たすための体制を整備し職員がやりがいを持てるように努めている。職員の評価報告を受け、職員の努力への労いや褒めることにも、心がけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を積極的に促し費用面での支援も行っている。研修後は、内部研修にて受講内容や、知識を周知し職員全体で、伝播を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの流行により、地域密着型意見交換会も、最近では、中止となって、中々人が集まるという事ができにくくなってきている。泉南市では、同業者のグループ(LSCグループ)というのがあり、そのラインの中で、いろいろな意見の交換が出来る。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	否定的な態度や言葉にならないように気を付けている。自分をわかってくれる人がいることが、安心につながるのではないと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんと接する機会は少ないが、困っている事や、不安な事を、相対的にとらえるのではなく、絶対的にとらえるように努めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活史を出来るだけ把握し現在の本人家族様の身体的精神的状況を考慮し、支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほんにんさまに楽しんで頂くという考えではなく、一緒に楽しむという意識をもって接するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子や、変化等を来荘時にはお伝えするように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多様な事情もあり、中々難しいことも多い。現状コロナの流行があり、以前訪ねてきてくださった方々も、面会して頂けず、最近では、途切れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的な、作業や、レクリエーションで、一人一人が、発言できるように意識している。トラブルになりそうなときは、さり気なく間に入るなど、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、連絡を取るなど努めている。病院などで、偶然見かけることがあったりすると、向こうは忘れてしまわれていることが多いが、気を付けて声掛けするように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、家族様、本人様より、お話を伺い把握に努めている。本人の話を傾聴、日頃の言動や他者との関わりの中で、意向を汲み取れるように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントや本人と家族様の話題等から把握できるように努めている。来荘時に近況をお伝えするとともに以前の暮らし方を伺ったりさせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望や、日々の体調の変化を共有し配慮、把握に努めている。得意な事や、好き嫌いを把握し声掛けを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを開催している。日々のちょっとした変化などは、職員間で、情報交換、共有している。本人様の状況大きく変化あるときは、臨時カンファレンスで対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況やケアは、個別に記録をしている。特に変化があった言動日については、記録、周知を行いカンファレンス等に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身の回りの買い物、通院、各種手続きなど、家族様とも、相談の上、出来る限り対応させて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	付き1回のボランティアの訪問や地元中学校の吹奏楽のコンサートへの参加を通じ地域社会とのつながりを大事にしてきましたが、今年は、コロナの流行により全くつながることができなくなっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族様の思いを大切にしながら、事業所の協力機関と連携をとっています。入所されると同時に内科については、夜間時熱発等、状況によって受診しないといけない事等起こってくることもあるので、その方の状況がわかるように、提携病院に情報を流し、適切な医療を受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護者が、日常のかかわりの中で、とらえた情報を迅速に伝えてくれることにより、早期に移乗などは発見出来、てきせつな受診へと繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関や、家族様と、連携しなるべく早期に退院できるように努めています。退院後の生活も、病院関係者と相談しながら、生活の中にも、リハビリを取り入れることができるように環境を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員が、状態を常に把握、共有しています。主治医と連携を図りながら、家族様と話し合い、今後の状態の変化に施設としてどう対応していくか伝えていきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の事故予防委員会でも、確認、共有をしています。また、学習会でも、急変時の対応などを、資料や、看護師の指導に基づき学習しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、3月には、消防訓練と共に、災害訓練も行うようにしています。災害時には、職員全員が、なにかの班に所属しているように各班分けも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、部外者の目につかないように記録などの整理整頓を心がけています。利用者さま個々の価値観、生活歴を大切に、その人にふさわしい言葉や声の大きさにも気を付けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員全体で個々の情報収集をし、理解できるよう、相手に合わせた説明等を行い、出来るだけ利用者様ご本人に選択して頂けるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週3回の入浴の順番は、決められたルールに沿った形にしているが、本人様が、拒否されたりしたときは、時間をずらして再度入浴の声かけをさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様と共に、入浴時の服選び、季節に合った洋服を提案させていただいたり、また毎日の髭剃り等の声掛け、又化粧水等の購入を行っている。ただし、今は、コロナの影響もあり 外出することが出来ないのも、本人の望みを聞いて購入してきている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の意思や身体の状態を考慮し、食事を作る過程において下ごしらえ、盛り付け等へのお手伝いの声掛けに快く参加して頂いています。おやつ作りにも、楽しみながら、参加して頂いています。利用者様 お互い和気あいあい で作ってくださっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調を把握し、食事量、水分量を記録し、又様子ヲ見ながら声掛けさせて頂いている。一日 1000ccを目安に 極端に少ない方には、しっかり声掛けさせて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、夕食後は必ず、声掛け、口腔ケアを行って頂く。義歯の方は、ご自身で、お手入れ頂き、その後職員によるお手入れをさせて頂く様にしている。また、人によっては、食後のうがい、歯ブラシが出来ない人は、お茶でうがいをさせて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを理解して声掛けさせて頂き、出来るだけトイレ内での排泄を出来るように持っていく。下剤を飲用している場合は、特に気を付けておくようにする。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中牛乳を飲んでいただく。排泄の有無を把握し、トイレに行かれた際は、排便の有無。声掛け、確認させて頂く様にしている。また、運動、散歩等行って頂く様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	不平等にならないように、日替わりで、入浴順を伝えるが、その日の気分だったり、体調などに合わせて、入浴を楽しんで頂ける様に声掛けさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツが汚れていないか、常に気を配り、汚れている時は、すぐに交換するようにしている。また、特に体温調整が難しい人の部屋は、小まめに居室内の気温をチェックしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	、往診時に検査結果等、先生の方から報告があり その時に薬の変更等 本人様にお伝えしている。薬1袋ずつ、日付、用法等を記入し、服用の際には、声に出して読み上げ、本人様にも確認して頂いた上で、服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせて、本人が得意とされていることなど、出来るだけ行って頂いている。家事、調理の手伝い、洗濯物たたみ、花の水やり、食事の盛り付け、ゴミ出し等 出来ることを手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の散歩や外出だけでなく、初詣、遠足、お花見、アジサイ 季節感を味わって頂けるように外出するようにしているが、今年は、コロナが流行っているため、1月の初地蔵は、地域の行事に参加という事が出来ましたが、それ以降は、外出を控えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、金銭管理は、施設の方で、行っている。外出した時は、職員が本人様の財布を持っていき、支払いが可能な入居者さまには、自身で支払いを行って頂く様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ることはできる範囲で、行って頂いている。家族様より届いて、手紙や荷物を 本人様が見て、お礼のはがきを出したいと言われたときは、一緒にはがきを購入しに行つて、返事を書いてポストに入れたということもありました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝の掃除の徹底、常に清潔に保ち室温も小まめにチェックしている。エアコンの風が寒い という訴えがあるときは、席の交代をして頂いたりしている。ただし、交代して下さっている相手の方が、ちょうどいい と感じておられる人との交代にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のところに置かれている椅子は、日ごろ席が離れておられる方々が、気の合うもの同士だったり たまたま一緒に座った者同士の会話の場所になっている。時間帯によっていろいろな人が、集まりそこに職員が加わっていたりで、思い思いの居心地の良い空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、馴染みのあるものを持ってきていただくようにしている。家族と離れて生活しているので、家族の写真等 時間の経過とともに大きくなった孫の写真等 送ってこられます。また、施設内で取られた写真なども、飾って頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には、今月の催し物等、書いて貼っている。認知症があり、すぐに忘れてしまわれる方でも、それを見るたびに こんなことが有るんだと理解してくれます。廊下には、トイレまでの導線が書かれていますし、トイレ内には、便が出たら、押してください という事なども、書かれていますので、排便のチェックも出来るようにしています。でも、職員は近くにはいて、見守っています。		